

第三次プノンペン市 洪水防御・ 排水改善計画



三井住友建設株式会社国際支店 プノンペン排水作業所 所長

重山 琢治

Takuji Shigeyama



径1,500mm x 2連パイプ敷設状況 (432通り)



工事着手前の道路冠水状況 (217通り) 2010年4月撮影

はじめに

カンボジア王国は、人口一、五一四万人(二〇一三年 世界銀行)、面積一八万平方キロメートルで、インドシナ半島の南東に位置し、ベトナム、ラオス、タイと国境を接し、国土の中心部をメコン川が南北に縦断している。

一方、産業はサービス業(GDPの四〇%)、農業(三二%)、工業(二四%)、一人当たりのGDPは一、〇一六ドル(二〇一三年IMF推計値)、過去十年間の平均経済成長率は七%を超えている。これはアンコールワット遺跡などの観光業並びに人件費の安さを強みとした外国からの製造業への投資、中でも輸出額の八〇%を占める縫製業が牽引役となっていると考えられる。このように、ASEAN域内でも安い人件費は外国投資家にとってチャイナプラスワン、タイプラスワンとして注目を浴びており、ここ数年は製造業を中心として日本企業の進出も盛んになっている。

プノンペンの紹介

当プロジェクトが行われているプノンペン市はカンボジア王国の首都でメコン川・トンレサップ川・バサック川の交わる箇所に位置し、人口一四五万人、政治・経済・文化の中心地として

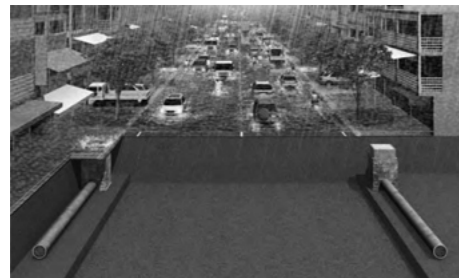
工事概要

本工事は、日本の無償資金援助で立案された首都プノンペンの雨水排水機能改善を目的とした事業の一環で、プノンペン市街地南部地域を対象とした第三次計画である。

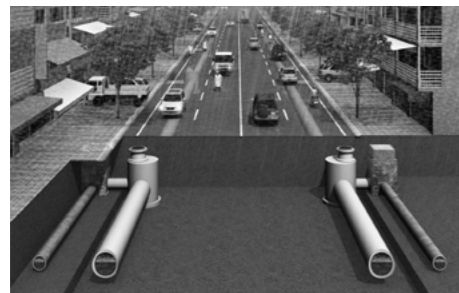
工事は、総路線延長二〇・六キロメートルの排水管敷設工事、沈殿槽改築工事からなる。

そのほか、排水システムの維持管理用高圧洗浄車及び汚泥吸引車の調達も含まれる。

プノンペン市内の既存の排水管はフランス植民地時代に整備され、その後一九七〇年代に起



着手前



完成後

て栄えている。

市内には多くの由緒ある寺院が立ち並び、それらの寺院や王宮は外国人観光客の観光スポットとなっている。また近年トンレサップ川沿いの護岸が整備され、市民にとっての憩いの場となっている。

現在プノンペンでは急速に日系企業が増えてきており、それに伴い日本人の数も二、三〇〇人(二〇一五年四月末現在 在留届ベース、在カンボジア日本大使館調べ)となり、日系のショッピングセンターや日本食レストランなどの出店が盛んになっている。

二〇一五年四月につばさ橋(ネアックルン橋)が開通し、バンコクとホーチミンを結ぶアジアンハイウェイ(南部経済回廊)の要衝として、今後ますますの経済発展が期待される。



つばさ橋全景

こつた内戦で約二〇年間維持管理が行われなかった。内戦終了後に日常の清掃作業が行われるようになったが、清掃に使用されている機材は老朽化が進み作業効率は著しく低下している。そのため管路内には汚泥が堆積して排水機能の低下を引き起こし、ひいては雨季に市内各所で浸水被害を起こし、交通障害や家屋の浸水、悪臭の発生など経済的、衛生的被害をもたらしており、排水施設の整備が早急に望まれる状況であった。

おわりに

首都の中心部での開削工事ということで、着手前は沿線住民や利用者とのトラブルが危惧された。しかし路線ごとに着手前の沿線住民説明会を実施して作業の周知徹底を図り、また関係諸官庁及び沿線住民の方々の多大なるご協力のもと作業を進めてこられたおかげで、二〇一二年四月着工以来大きなトラブルもなく進捗し、二〇一五年五月二十一日に最後の本管敷設を終えることができた。

工事期間中も多くの方々が現場見学に訪れ、本事業への関心の高さを感じた。

工事完了後、沿線の浸水被害が低減され、市民生活向上並びに街の更なる発展のために少しでもお役に立てれば幸いです。